

経営比較分析表（令和3年度決算）

奈良県 高取町

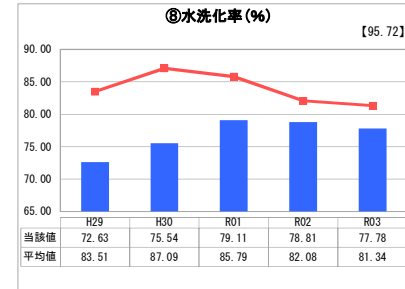
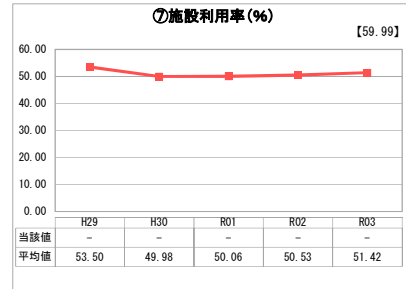
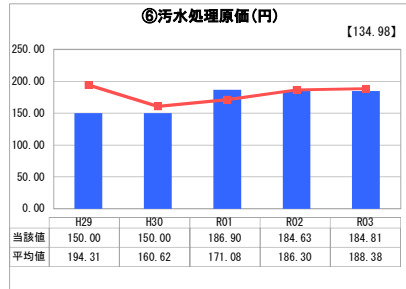
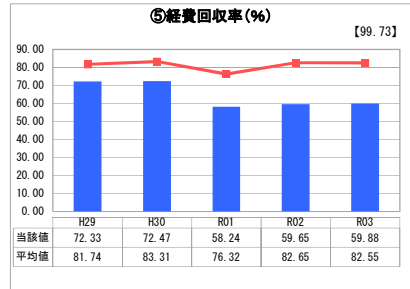
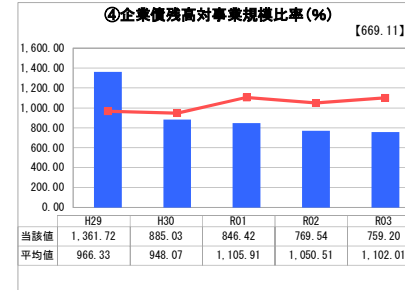
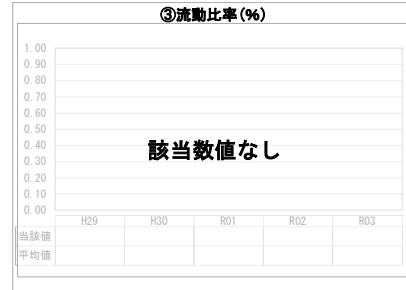
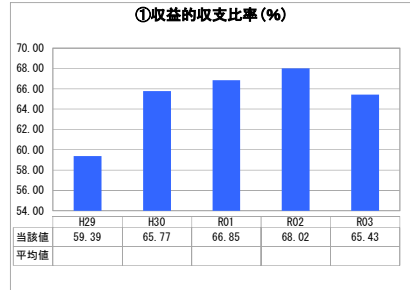
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金 (円)
-	該当数値なし	30.52	88.00	2,200

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
6,415	25.79	248.74
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
1,949	0.40	4,872.50

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町は大和川上流・宇陀川流域第二処理区の末端で、事業開始が平成3年度供用開始が平成11年度と遅く、町の大部分が建設中であり、普及率についてもR3末で34%とまだ本格的な経営もできていない状況である。

支出の大半は企業債の償還であることから、近年は起債の償還と借入のバランスを考え、事業費を減少させながら事業を実施していたが、平成27年度にアクションプランを策定し10年達成に向けて事業費を増額し整備を進めている。

しかし財源は一般会計の繰入金により賅っている状況である。

収益的収支比率は、令和2年度と比べて、令和3年度は不明水調査に伴う県費補助の減及び地方債償還金の増により敬減している。

企業債残高対事業規模比率は、令和3年度は、ほぼ横ばいである。

経費回収率は、地方債の償還額の増減に左右される比率となっているが、令和3年度は、ほぼ横ばいである。

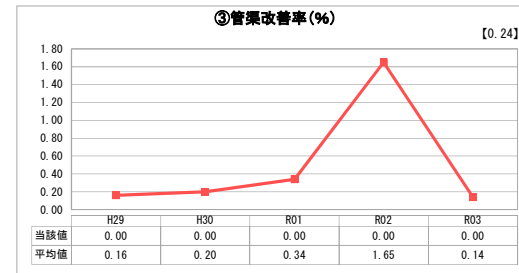
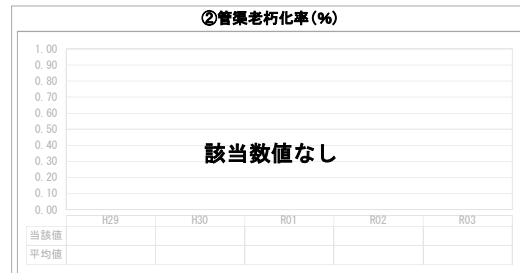
汚水処理原価は、普及率が低く、また、地形的要因により建設コストが高くなっているが類似団体平均値と大きな乖離もなく令和2年度と比べて、令和3年度はほぼ横ばいである。

水洗化率は少しずつ増えていたが、人口減少による空家の増加により昨年度より減少している。

2. 老朽化の状況について

平成4年度から管渠の敷設を開始しており、今後ストックマネジメント計画を策定した上で検討していかねばならない。

2. 老朽化の状況



全体総括

現在集中浄化槽で汚水処理されている開墾地等を接続するなど、効率的に料金収入の増加が見込めるよう、事業を進めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。